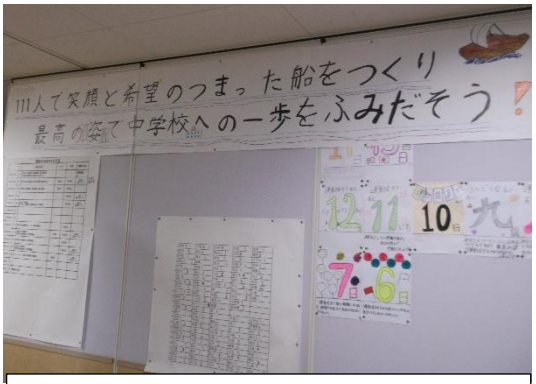
西浮通信

令和４年１０月２８日
ＮＯ．３８５
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

運動会を通して付けたい実践力

副校長　冨田　暁子

いよいよ運動会がせまってきました。運動会練習が始まって２週間余り、日を追うごとに上手になっていく子供たちはさすがです。代表委員会での話し合いの結果、今回の運動会のスローガンは「ともに全力で走れ！かがやくえがおへ！」となりました。



６年　運動会練習予定とスローガン

直近の全校朝会で校長先生が運動会のスローガンをみんなで言ってみよう、と話すと全校児童が声を揃えました。どの学年の子も言えたことに驚きました。これまでの経験でスローガンを掲げる機会は度々あるものの、ただの飾りとなっていることも往々にしてあったからです。スローガンは言うまでもなく、子供たちが〇〇したいという思いと教員が身につけて欲しいという願いが込められているものです。子供たち自身が決めた目標に向かって、具体的に何をするかを自分で決め、そこにどれだけの本気を込められるかが大切であると考えます。本気になっている「つもり」、から本当に全力を出し切るまでには大きな壁があるように思います。経験の少ない子供たちが、どうしたら本気を出せるのか知るには、大人の助けが必要となります。スローガンをもとに上手になっていく過程を大切にする、子供たちが何に一生懸命になっているか寄り添い励まし褒める、終わった後に頑張りを認める等々です。大きな目標に向かって頑張った後、子供たちは褒められて充実感を得たり、反対に普段から体育の授業にもっと一生懸命取り組んでおけば良かったと反省したりしながら、実践力はついていくのではないでしょうか。

３年　運動会練習中友達へメッセージ

運動会当日は、全力を出して頑張る姿、運営を支えるために各係を責任もってやり遂げる姿の中に子供たちが自ら目標を立て、実践する力が付いていることが見られることと思います。全力を出し切り、笑顔になっている子供たちの姿を是非ご覧ください。

１１月は「ふれあい月間」となっています。学校では、毎日のいじめ未然防止・早期発見の取組に加えて、相手が嫌に思うことを言ったりしたりしていないか、周りに悲しい思いをしている友達がいないか学校生活について振り返りをしています。相手の立場に立って考えるには、どれだけ具体的に考えるかが実践力につながります。教室に一人でいる友達に遊びの声かけをしているか（行動に移しているか）、相手が嫌がらない別の言い方はなかったか（自分とは違う他者の感じ方を考えたか）等です。この時、スローガンに向けて何をするか考え、実践した力が大きく生かされると考えています。自分の言動が目標に向かっているか考える力を付けてきているからです。

運動会が終わっても、運動会の練習でスローガンの下取り組んだように「ともに」（友達と）「かがやく笑顔」（全力を出し切った充足感）を得られるように、学校全体で指導を続けていきます。人と豊かに関わる中で、相手を想い、行動できる西浮間小の子供たちに育って欲しいと願っています。